

# よえもん

※「よえもん」とは、中江藤樹、幼少の頃の愛称です。

## 論語から学ぼう

(記念館玄関東案内看板に掲示中)



《 第89号 》 (令和5年度第6号) 3月 発行

いよいよ休館の時を  
迎えました。少し寂しいですが、  
一年後に再会できますこと祈ります。

中江藤樹記念館で「掃除に  
学ぶ会」を実施されました！



藤樹書院蔵



論語「学而第一之十五

書

淵田瑞穂さん

切するがごとく  
磋するがごとく  
琢するがごとく  
磨するがごとく

春が近づいてきました。皆様にはますますお元気で過ごしのこととお喜び申し上げます。年明けから冬の寒さが続きましたが、本記念館にもたくさんの方々が訪問くださいます。本当にありがとうございます。職員一同、感謝しております。

さて、2月4日(日)に、本記念館で「掃除に学ぶ会」を実施されました。本事業は、様々な施設を巡って、その施設のトイレを掃除されます。今回は良知館のトイレを掃除される予定でしたが、定員を超えて多くの方が参加されることになり、急遽本記念館も掃除場所に入れられました。実は私も過去に何度も参加させていただきました。過去の勤務場所を掃除いただいたからです。「掃除を学ぶ会」ではなく「掃除に学ぶ会」です。どの施設の掃除でも、場所は「トイレ」と決まっています。方法は一人が一つの便器を担当し、およそ2時間同じ便器の汚れや尿石を磨いてきれいにします。2時間かければ当然きれいになり、トイレ特有の臭いもすっかりなくなります。「掃除を通して心を磨く」ということです。「掃除を…」ではなく「掃除に」の所以です。掃除ありがとうございました。



みなさんは「切磋琢磨」という四字熟語を知っていますか？これは、孔子が門人の子貢に伝えられた論語の言葉から生まれたものです。

切磋とは、骨や象牙を切ったり砕いたりすること。琢磨とは、玉や石を磨くことで、素材を美しい工芸品に加工することを表しています。

このことから、仲間どうしが励まし合い、競い合って向上すること、学問や道徳を磨き上げることという意味があります。勉強もスポーツも互いに切磋琢磨しあって、今以上に力をつけるよう頑張りましょう。

### その6 蕃山と源氏物語

中江藤樹や記念館にまつわる  
豆知識のコーナー

「源氏物語」の作者・紫式部は高島にもゆかりのある人物で、京の都から越前(福井県)へ向かう途中、高島に立ち寄ったときに詠んだとされる歌が白鬚神社の歌碑に刻まれています。

「源氏物語」は日本の古典文学の名作として広く知られ、中江藤樹の代表的な門人・熊沢蕃山も愛読した一人でした。蕃山は源氏物語の内容を解説した「源氏外伝」を書いています。

江戸時代、ドラマチックな恋愛を描いた源氏物語をよく思わない儒学者もいましたが、儒学者であると同時に日本文化の研究者でもあった蕃山は、源氏物語には人間らしい愛情や思いやりの心が詳しく書かれ、また、日本の古くからの言葉づかい、礼儀作法、楽器演奏(雅楽)など、昔の日本の優雅で奥深い様子を知ることができると述べました。



### 職員だより

忘己利他・・・「もうこりた」と読みます。

むずかしい言葉ですが覚えておいてください。比叡山延暦寺を開いた天台宗最澄の有名な言葉です。失敗して「もう懲(こ)りた」ではありません。

忘己利他とは、「己(おのれ)を忘(わす)れて他(た)を利(り)するは 慈悲(じひ)の極(きわみ)なり」

自分より相手の立場にたち相手が喜ぶおこないをする。それは仏さまの尊いおこないと同じで、そこに人としての本当の幸せがあるという意味です。

私たちはどうしても自分中心にふるまい、相手を傷つけてしまうことがあります。

相手の立場にたち、相手を思いやる心を忘れなければいつでも相手の笑顔が見える幸せを実感できます。

これからも学校やお家で「ありがとう」の言葉と「笑顔」がいっぱいになるよう努めましょう。



近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL:FAX (0740)-32-0330

